

蒲郡駅事件第4回公判

中村人事課長が証言！

文書流出はいい加減な会社と見られてしまう

9月30日、名古屋地裁で蒲郡駅事件第4回公判が行われました。前回同様、JR総連に結集する仲間たちにも参加いただき、250名が結集し傍聴券獲得と報告集会を開催しました。会社は、130名の管理者・社員を動員していましたが、傍聴席76席中52席を確保することができました。

今回は、東海鉄道事業本部中村人事課長（当時）に対して証人尋問が行われました。中村人事課長は、JR東海労がホームページに掲載した管理者用文書は、「社員の人事に関わる重要な資料」「管理者用の文書が流出させるいい加減な会社とみられる」など、管理者用文書の重要性を執拗に繰返し主張していました。また加藤誠二さんが映っている監視カメラの映像を写真にして、盗んだとするストーリーを描き出そうとしました。

反対尋問では、いかに会社がJR東海労を敵視し弱体化する労務政策をとってきたのかを明らかにし、会社がJR東海労の組織的犯行とあらかじめ決めつけ、加藤誠二さんを犯人にデッチ上げようとしていたことを暴露しました。

次回は11月27日10時30分から、加藤誠二さんの証人尋問が行なわれます。多くの組合員の支援・激励をお願いします。



「**差しपोर्टを出さない社員が増えてしまう**」
「**社員と管理者に溝ができ不信感が生まれる**」と泣き言！